

たゆまぬ努力を顕彰

——2020年、視覚障害関連各賞を受賞した方々

コロナ禍に翻弄された感のある2020年。ノーベル賞でも授賞式は規模を縮小し、受賞者が出席しないテレビ中継で行なうなどの対応を余儀なくされている。しかし、受賞者の功績が色褪せることは決してない。今年、視覚障害関連の各賞を受賞した方々の事績を改めてご紹介し、慶祝の意を表したい。（本誌）

30歳代までの視覚障害者を対象に、職業自立をし、視覚障害者の文化や福祉の向上に寄与する人材に贈られる、チャレンジ賞（男性）とサフラン賞（女性）（視覚障害者支援総合センター主催）。第18回チャレンジ賞は齋藤健司さん（38歳、神奈川県立平塚盲学校教諭）、同サフラン賞は上田喬子さん（33歳、日本点字図書館職員）が受賞した（本誌8月号で既報）。

京都ライトハウス主催、視覚障害者福祉の発展に大きく寄与し、夢と希望を与えた人を表彰する第38回鳥居賞は茂木幹央さん（84歳、日本失明者協会 理事長）に、視覚障害のある家族や知人を支えてきた人を称える第24回鳥居伊都賞は鈴和代さん（64歳、点訳ボランティア）にそれぞれ贈られた。

茂木さんは、定員120名の「養護盲老人ホームひとみ園」をはじめ、視覚障害者向けの就労施設やグループホームなど9種の社会福祉事業を行なっている。また、盲人演劇や全国視覚障害者等カラオケコンクールなど文化面にも力を入れている。

鈴さんは、北海道、埼玉県、山梨県、静岡県など各地で、共同点訳や講師として活躍。さらに、点字技能師、点字指導員と